

令和6年度 公社等経営評価シート
(対象期間：令和5年4月1日～令和6年3月31日)

概

名 称	公益財団法人宮崎県移植推進財団			所在地	宮崎市橘通東2丁目10番1号	
電話番号	0985-25-3106			ホームページ	https://m-isvyokusuisin.com	
設立年月日	平成4年7月7日	代表者	理事長 小牧 斎	県所管部・課		福祉保健部 健康増進課
総出資額	46,794 千円		県出資額	29,619 千円		県出資比率 63.3%

要

設立目的	臓器移植を推進するため、県民への移植医療の知識や意義の普及啓発、医療機関への情報提供及び移植医療が適正に行われるための支援を行い、もって県民の健康及び福祉の向上に寄与することを目的とする。
特記事項	臓器の移植に関する法律（平成9年法律104号）第3条に、移植医療に関する普及啓発は国及び地方公共団体の責務であることが規定されている。

改 革 工 程	内容		令和4年度	令和5年度	令和6年度
	①公社等のあり方見直し	新公益法人制度での運営	事務局2名体制に移行後も効率的に業務を実施した。	事務局2名体制に移行後も効率的に業務を実施した。	より効率的な業務運営を検討する。
	②公社等の経営見直し	経営・事業運営改善	事業計画に基づく事業の実施	コロナ禍の影響が依然としてあったが、新しい取組である「みやざき“いのちのリレー”ポスターコンテスト」を実施するなど、普及啓発を充実させた。	昨年度から実施しているみやざき“いのちのリレー”ポスターコンテストや、出前講座等による若い世代への臓器移植の啓発を促進した。
		財務改善	賛助会員・寄附金等の拡大、基金取崩額の減額	賛助会員・寄附金の増額に取り組み、基本財産を取り崩すことなく事業を実施した。	医療関係機関だけでなく、中学校等における出前講座を実施するなど、広く普及啓発を促進する。
		組織等適正化	組織体制の充実に向けた検討	事務局2名体制に移行後も効率的に業務を実施した。	新規の賛助会員の加入促進や、寄附付き自動販売機の設置を検討し、自主財源の増を図る。
	③県と公社等との関係見直し	人的支援見直し	組織体制維持のため、人的支援を維持した。	組織体制維持のため、人的支援を維持した。	独立した運営の検討を行う。
		財政支出見直し	現在の補助金を維持	組織体制維持のため、必要な補助金額を確保した。	必要な補助金を確保する。
	④情報公開推進	ホームページでの情報公開の充実	ホームページによる財務状況、活動状況等の情報公開を積極的に行った。また、情報誌において、ポスターコンテストの最優秀作品を紹介した。	ホームページによる財務状況、活動状況等の情報公開を積極的に行った。また、情報誌において、ポスターコンテストの最優秀作品を紹介した。	ホームページによる財務状況、活動状況等の情報公開を積極的に行う。

県 関 与 の 状 況	人 的 支 援	(人)	令和5年度				令和6年度			
			合計	県職員	県退職者	左記以外の者	合計	県職員	県退職者	左記以外の者
		役員数	9	3	3	3	9	3	3	3
		常 勤	1	0	1	0	1	0	1	0
		非常勤	8	3	2	3	8	3	2	3
	職員数	1	0	0	1	1	0	0	1	
	財 政 支 出 等	(千円)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	(千円)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
		県委託料	0	0	0	県借入金残高	0	0	0	
		県補助金	7,444	7,702	7,702	県の損失補償契約等 に基づく債務残高	0	0	0	
		県交付金・負担金・ 出資金	0	0	0	県職員人件費 (県支給分)	0	0	0	
その他の県からの支援等		事務局を県福祉保健部健康増進課内に置いている。								
主 な 県 財 政 支 出 の 内 容	事業名		事業内容			令和5年度 決算額(千円)	令和6年度 予算額(千円)	種別		
	①	宮崎県臓器移植推進事業補助金	臓器移植の円滑な実施及び移植医療の普及を図るための一部補助で、対象経費は活動に必要な経費			7,702	8,782	補助金		
	②									
	③									
	④									
	⑤									

実施事業	① 普及啓発に関する事業 ② 臓器提供の意思表示を促進する事業 ③ 腎臓移植希望者への助成に関する事業 ④ 臓器提供医療機関の体制整備支援・教育及び臓器移植関係機関相互の連絡調整に関する事業 ⑤ 臓器のあっせんに関する事業									
	活動指標	指標名		算式（単位）		令和5年度		令和6年度	令和7年度	
						目標値	実績値	達成度(%)	目標値	目標値
		①	会議（研修会）回数	（回）		2	2	100.0%	2	2
		②	臓器提供意思表示啓発リーフレット配布	（枚）		20,000	16,595	83.0%	20,000	20,000
	③	出前講座実施回数	（回）		10	10	100.0%	10	10	
指標の設定に関する留意事項										

財務状況	正味財産増減計算書（千円）				貸借対照表（千円）			
		令和3年度	令和4年度	令和5年度		令和3年度	令和4年度	令和5年度
	経常収益	11,428	12,151	14,056	資産	50,923	50,266	49,985
	経常費用	11,332	12,321	12,643	流動資産	4,094	3,437	3,155
	当期経常増減額	96	-170	1,413	固定資産	46,830	46,830	46,830
	経常外収益	0	0	0	負債	3,045	2,579	906
	経常外費用	0	0	0	流動負債	3,045	2,579	906
	当期経常外増減額	0	0	0	固定負債	0	0	0
	税引前当期一般正味財産増減額	96	-170	1,413	正味財産	47,878	47,687	49,079
	法人税・住民税及び事業税	21	21	21	指定正味財産	46,794	46,794	46,794
	当期一般正味財産増減額	75	-191	1,392	（うち基本財産への充当額）	46,794	46,794	46,794
	一般正味財産期首残高	1,010	1,085	893	（うち特定資産への充当額）	0	0	0
	一般正味財産期末残高	1,085	893	2,285	一般正味財産	1,085	893	2,285
	当期指定正味財産増減額	0	0	0	（うち基本財産への充当額）	0	0	0
	指定正味財産期首残高	46,794	46,794	46,794	（うち特定資産への充当額）	0	0	0
	指定正味財産期末残高	46,794	46,794	46,794				
	正味財産期末残高	47,878	47,687	49,079				

※千円未満を四捨五入して表示しているため、合計の金額と一致しない場合があります。

財務指標	指標名		算式（単位）	令和5年度			令和6年度	令和7年度
				目標値	実績値※	達成度（%）	目標値	目標値
	①	自己収入比率	（基本財産運用益＋自己収益）／経常費用計×100（%）	20.0	36.4	182.0%	20.0	20.0
		※ 令和5年度 実績値の算式	（13千円＋2,501千円＋2,091千円）／12,643×100					
	②	事業比率	事業費／経常費用計×100（%）	68.0	91.0	133.8%	68.0	68.0
		※ 令和5年度 実績値の算式	11,501千円／12,643千円×100					
	③							
		※ 令和5年度 実績値の算式						
	指標の設定に関する留意事項							

直近の県監査の状況	令和5年度財政援助団体等の監査（9月26日事務局監査、12月7日委員監査）において、指摘事項等はなかった。
-----------	---

総合評価	公社等 自己評価	普及啓発事業について、臓器移植の理解醸成を図るポスターコンテストを実施し、集客施設等で作品展示を行ったほか、中学校での出前講座等若い世代を含めた普及啓発に努めた。関係医療機関に対しては、腎臓提供協力病院連絡会議をDX技術を用いた参加しやすい形で開催し、移植医療のスキルアップ促進を支援した。 財務面については、普及啓発事業の効率的・効果的な執行や賛助会費・寄附金等の要請活動等に努めた結果、3年連続で基本財産の取崩しを行うことなく決算することができた。				県所管部課 二次評価	イベントやポスターコンテストを通じて、臓器移植を推進する上で重要な普及啓発事業を積極的に行った。また、医療を志す学生等に加え、中学校における出前講座も実施するなど、広く若い世代が臓器移植を考える機会を提供した。 財務面においては、賛助会費・寄附金等の自主財源の確保に努めたほか、効率的な事務を推進し、基本財産の取崩しを行うことなく事業執行が行われた。 なお、自己収入比率の大幅な増は、会計処理を見直したことによる一時的なものであり、引き続き自主財源の確保に努める必要がある。			
	評価（A：良好、B：ほぼ良好、C：やや課題あり、D：課題多い）	改革工程	活動内容	財務内容	組織運営	評価（A：良好、B：ほぼ良好、C：やや課題あり、D：課題多い）	改革工程	活動内容	財務内容	組織運営
	B	B	B	A	B	B	B	B	A	
	目標達成度					公社等改革 推進委員会 三次評価	活動内容については、指標として設定している出前講座等を中心に、若い世代に対する普及啓発・理解促進に積極的に取り組んだ点で評価できる。 財務内容については、いずれの指標も目標値を上回っており評価できるが、自己収益の増加は一時的なものであるため、引き続き自主財源の確保に努めることが求められる。			